

**円谷プロ史上最大の祭典「TSUBURAYA CONVENTION 2019」開幕！**  
**映画『シン・ウルトラマン』樋口真嗣監督と主演 斎藤工さんがオープニングセレモニーに登壇！**  
～斎藤工さん 初公開となった『シン・ウルトラマン』デザインの感想は「ずっと見ていられる美しさ」～

ULTRAMAN  
**シン・ウルトラマン**  
空想特撮映画



株式会社 円谷プロダクション（本社：東京都渋谷区、代表取締役社長：永竹 正幸、以下「円谷プロ」）は、2019年12月14日(土)、12月15日(日)に東京ドームシティにて開催する円谷プロ史上最大の祭典「TSUBURAYA CONVENTION 2019」の開幕を飾るオープニングセレモニーを本日実施致しました。

オープニングセレモニーでは、映画『シン・ウルトラマン』監督の樋口真嗣さんと主演の斎藤工さんをゲストにお招きし、「ウルトラマン」の思い出などについてのトークセッションを行いました。

また、映画『シン・ウルトラマン』に登場する「ウルトラマン」のデザインとロゴも初公開となりました。

このデザインは、『ウルトラQ』『ウルトラマン』『ウルトラセブン』などで実質的な美術総監督として今に続く「ウルトラマンシリーズ」の世界観構築に大きな功績を残した成田亨（なりた とおる）さんが、1983年に描かれた絵画『真実と正義と美の化身』がコンセプトとなっております。

また、「TSUBURAYA CONVENTION 2019」オープニングセレモニーでは、映画『シン・ウルトラマン』に登場する「ウルトラマン」のデザインの雛形も公開されました。



『真実と正義と美の化身』



「ウルトラマン 第一号雛型(素体立体物による形状検証用)」(写真左)  
「ウルトラマン 第二号雛型(着彩済立体物による体表ライン検証用)」(写真右)

## 【樋口真嗣 監督コメント】



### ・「ウルトラマン」との思い出

「ウルトラマン」は物心ついた時から浴びるように観て育ちました。自分にとって心の一部です。

### ・『シン・ウルトラマン』撮影現場の雰囲気

色んなキャストの方と、世代を超えた仲で「ウルトラマン」を通じて良いチームになりました。撮影は楽しく、撮影が終わっても、いつまでも気分浸っていました。

### ・『シン・ウルトラマン』の「ウルトラマン」デザインの感想

かつて自分で「ウルトラマン」をやってしまう程、「ウルトラマン」が好きな庵野秀明の想いを結晶させたいというのが我々の仕事です。庵野が望んでいる、というのが好きなのか、どう「ウルトラマン」を見たいのか、作りたいのか、という事を徹底的に集めてこの形になりました。

成田亨さんと佐々木明さんが最初に作られた彫刻の複製をよく見ると、左右非対称になっていて、それがものすごく人間的なものを感じて、「これは人の手が作った素晴らしいものなんだ」「一番最初に作られたものにもう一度戻りたい」そんなところから全てが始まりました。

### ・皆様へのメッセージ

今日お見せできたのはごく一部で、これからまだまだやらなければならない事がいっぱいあります。2021年に向けて完成させるべく、頑張っていきたいと思います。ご期待ください。

## 【齋藤工さんコメント】



### ・「ウルトラマン」との思い出

父が『ウルトラマンタロウ』の現場で働いていた影響もあって、「ウルトラマン」や怪獣の人形が唯一の遊び道具でした。

### ・『シン・ウルトラマン』の出演オファーを受けた時の感想

“ウルトラマンになる男”に選ばれた時は、まさか自分が本当に変身する、という人生とは思っていませんでした。夢の様でした。物語の内容はまだお話しできませんが、「だから僕がやるんだ」という理由がそこに書かれていた気がしたという不思議な体験をしました。

### ・『シン・ウルトラマン』の「ウルトラマン」デザインの感想

ずっと見ていられる美しさがありますね。すごく自然な生命体な気がします。

### ・皆様へのメッセージ

「令和の子供たち」だけではなく、「令和の大人たち」にも必要な作品が生まれようとしています。オリンピック後の東京が、日本が、どうなっていくのか真価が問われる時代がやってくると思います。その時代に必要な作品が生まれると、心から期待しております。皆さん是非 2021 年を楽しみにお待ちください。

## ■ 映画『シン・ウルトラマン』企画・脚本 庵野秀明さんからのメッセージ

・『シン・ウルトラマン』の「ウルトラマン」について（2019/12/11）

成田亨氏の描いた『真実と正義と美の化身』を観た瞬間に感じた「この美しさを何とか映像に出来ないか」という思いが、今作のデザインコンセプトの原点でした。

我々が『ウルトラマン』というエポックな作品を今一度現代で描く際に、ウルトラマン自身の姿をどう描くのか。その問題の答えは、自ずと決まっていました。

それは、成田亨氏の目指した本来の姿を描く。現在のCGでしか描けない、成田氏が望んでいたテイストの再現を目指す事です。世界観を現代に再構築する事は挑戦出来てもあの姿を改める必要を感じ得ず、成田亨・佐々木明両氏の創作したオリジナルへの回帰しか、我々の求めるデザインコンセプトを見出せませんでした。

その為に――

『真実と正義と美の化身』と成田氏が当時から後年にかけて描いていた様々なウルトラマンのイメージを踏襲し融合し再構成させた新たな体表のライン。

成田氏が監修した、佐々木明氏制作によるマスク。

成田氏が望んだ、古谷敏氏の体型データをベースとした体躯。

成田氏が望まなかった、眼の部分に覗き穴を入れない。

成田氏が望まなかった、スーツ着脱用ファスナーに伴う背鰭を付けない。

そして、成田氏が望まなかった、カラータイマーを付けない。

と、いう作業を行った結果が今回のデザインです。

ウルトラマンの美しさに、少しでも近づきたいという願いから生まれた姿です。

この思いが、わずかでも観客の皆様には伝わる事が出来れば、幸いです。

企画・脚本 庵野秀明

## ■ 成田湊さんからのメッセージ

・「シン・ウルトラマン」のデザイン発表に寄せて（2019/12/12）

昨年の初春、母と私のもとへ庵野秀明さんが来訪され「『真実と正義と美の化身』を映画にしたい」と仰っていただいた時のことは忘れません。耳を疑うほどに嬉しかったのです。

父、成田亨は、自身が試行錯誤しながら生み出した「ウルトラマン」を、生涯を通して深く愛し、誇りに思っておりました。

同時に、その「ウルトラマン」を生み出した自身の名前がクレジットから消され、デザインが変質され、商業的に利用され続ける人間社会に深い悲しみと絶望を抱いておりました。その心を正直に発した事で、誤解や誹謗中傷も受けました。

父は悲しみが癒されることなく2002年に他界しましたが、その背中を通して多くを感じながら育てられた私は、父を誇りに思い、時に哀れに思い、そして心から尊敬しています。

生前の父の言葉を思い出します。「本物は残る、本物であれ」

『真実と正義と美の化身』は、芸術家として生きた当時の父の全てが注ぎ込まれた油彩画です。その絵画が、当時まだ子どもとしてウルトラマンを見ておられた庵野さんの感性に50年以上の時を経て触れ、才能を発揮し続ける庵野さんの稀有な感性と交わり、「シン・ウルトラマン」としてどの様な姿でスクリーンに蘇るのか、期待に胸が膨れ、熱くなっております。

昭和の子どもが心踊らせた「ウルトラマン」が、令和の子どもたちに「シン・ウルトラマン」として蘇る。子ども達の心に残る忘れられない映画の誕生を心待ちにしております。

成田湊

## ・成田亨さんプロフィール

1929年9月3日、神戸市生まれ。生後間もなく青森県へ移り、以後、青森県と兵庫県内の転居を繰り返す。

1954年、武蔵野美術学校（現・武蔵野美術大学）彫刻研究科在学中、「ゴジラ」の美術スタッフにアルバイトとして参加。

これを機に東宝だけでなく大映や松竹、東映などの特撮美術に携わり、1960年、東映の特撮美術監督に就任。

1965年、円谷特技プロ(当時)と契約し、同社の「ウルトラQ」「ウルトラマン」「ウルトラセブン」「マイティジャック」などで、ウルトラマンをはじめとするキャラクターや怪獣、メカ、防衛隊のコスチュームや基地のセットにいたるまでをデザインし、映像作品の世界観構築に多大なる功績を残した。

1968年にフリーとなったからは、「突撃! ヒューマン!!」などの特撮や「樺太 1945年夏 氷雪の門」「新幹線大爆破」「この子を残して」「麻雀放浪記」など映画美術のほか、百貨店のディスプレイや博覧会、催事場のデザインなど活躍の場を広げていった。

2002年2月26日、多発性脳梗塞のため永眠。享年72歳。

2003年「アート・ツアー・イン青森 成田亨が残したもの」展、2005年「成田亨の世界」展、2007年「怪獣と美術」展、2014年～2015年「成田亨 美術／特撮／怪獣」展が開催された。

## ■ 円谷プロダクションコメント

・『シン・ウルトラマン』の「ウルトラマン」について（2019/12/12）

初めて庵野秀明氏と『シン・ウルトラマン』の企画の話をした時から、庵野氏にはある想いがありました。それは、成田亨氏の描いた『真実と正義と美の化身』を今作のデザインコンセプトにしたいということ。

成田氏の描かれたデザインは現在まで続く「ウルトラマン」の原点であり、私たちは庵野氏の「ウルトラマンの美しさに少しでも近づきたい」という想いに全面的に賛成しました。私が初めて成田湊氏とお会いしたのは2018年春でした。それ以来、亨氏の偉業について、そしてご苦労についてお伺いすることができました。その上で、この機会に改めて成田氏の円谷プロダクションでの仕事と功績に対して惜しみない賛辞をお贈りしたいと思います。

今作をご覧になる多くの方が最高にして美しい「ウルトラマン」を目撃します。どうぞご期待ください。

株式会社 円谷プロダクション 代表取締役会長 兼 CEO 塚越隆行

## ■ 映画『シン・ウルトラマン』とは

昭和41年（1966年）の放送開始以来、海外でも100を超える地域で放送され、今なお根強い人気を誇る日本を代表するヒーロー“ウルトラマン”が『シン・ウルトラマン』として映画化されます。

本作の企画・脚本をつとめるのは、自身もウルトラマンシリーズのファンであることを公言する庵野秀明。そして、監督は、『新世紀エヴァンゲリオン』をはじめ、数々の傑作を庵野氏と共に世に送り出してきた盟友樋口真嗣。日本中に衝撃を与えた大ヒット作『シン・ゴジラ』（16年）で第40回日本アカデミー賞 最優秀作品賞・最優秀監督賞など主要7部門で最優秀を受賞した最強コンビが、満を持してこの新たな空想特撮作品に臨みます！

そして、強力なスタッフ陣の元に、豪華な俳優陣が集結しました！主人公の【ウルトラマンになる男】には、『シン・ゴジラ』で僅かな出演ながら強烈な存在感を残し、正統派から怪役まで様々なキャラクターを演じ分ける斎藤工。主人公の相棒役に映画『マスカレード・ホテル』『キングダム』『コンフィデンスマン JP』と美しさ、華やかさ、そして演技力を兼ね備えた女優・長澤まさみ。そして、『MOZU』シリーズ、映画『散り椿』、『空母いぶき』『任侠学園』など幅広い役柄を演じ切り、人気実力ともに日本映画界を代表する俳優・西島秀俊が重要な役どころを演じます。また、斎藤、長澤、西島と同じく、様々な脅威に立ち向かうメンバーの一員として、Hey! Say! JUMPの一員で、興行収入93億円を記録した映画『劇場版コード・ブルー―ドクターヘリ緊急救命―』での熱演が記憶に新しい有岡大貴、ドラマ『ラーメン大好き小泉さん』映画『百瀬、こっちを向いて』等数々の出演作でその独特の存在感を放つ早見あかり、舞台・テレビドラマ・映画とあらゆるジャンルで活躍する日本を代表する実力派俳優田中哲司。その他、物語の鍵を握る役どころで、山本耕史、岩松了、長塚圭史、嶋田久作、益岡徹、山崎一、和田聰宏といった演技派・個性派キャストが総出演いたします！

『シン・ゴジラ』が初代『ゴジラ（1954年）』の現代社会での再構築であったように、「ウルトラマン」の企画発想・原点に立ち還りながら、現代社会を舞台に“未だ誰も見たことのないウルトラマン”が存在する世界の体験、そして、放送当時初めてテレビで“ウルトラマン”を目撃した時と同様の衝撃をもたらすことを目指します。様々な言葉の意味を持ちうる「シン」の言葉を冠にした新たなプロジェクトが、いよいよ本格始動となります！どうぞご期待ください！！

## ■『シン・ウルトラマン』作品概要

- ・出演：斎藤工 長澤まさみ 有岡大貴 早見あかり 田中哲司 / 西島秀俊  
山本耕史 岩松 了 長塚圭史 嶋田久作 益岡徹 山崎一 和田聰宏
- ・企画・脚本：庵野秀明
- ・監督：樋口真嗣
- ・音楽：鷺巣詩郎
- ・製作：円谷プロダクション 東宝 カラー
- ・製作プロダクション：東宝映画 シネバザール
- ・配給：東宝
- ・公開：2021 年
- ・マルシー：©2021「シン・ウルトラマン」製作委員会
- ・公式サイト：<https://shin-ultraman.jp/>

＜本件に関するお問い合わせ先＞  
円谷プロダクション Web お問い合わせ  
<https://www.tsuburaya-prod.co.jp/contact-us/>